

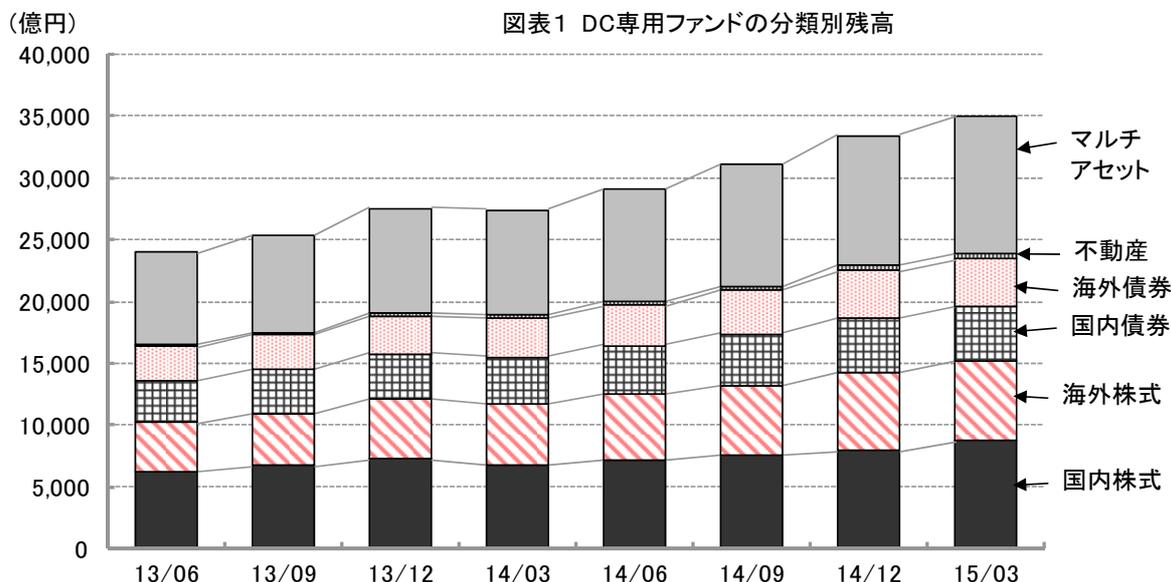
### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2015年3月)

2014年度第4四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ、1,584億円増加し、3兆5,023億円になりました。収益率は多くのファンド分類でプラスとなり、国内株式型では10%近い高いパフォーマンスとなりました。資金流入を見るとマルチアセット型への資金流入が257億円と突出しています。これに続くのが海外株式型や国内債券型です。パフォーマンスの高かった国内株式型への資金流入は最も少なくなっており、相場の急騰により利益確定などの売却も多く発生したようです。

#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2014年度第4四半期(1月～3月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信<sup>1</sup>の残高は前四半期に

比べ1,584億円増加し、3兆5,023億円になり、4四半期連続で過去最高額を更新しています(図表1)。



出所)野村総合研究所

<sup>1</sup> DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

ファンド分類別にみると、ほとんどの分類で残高が増加しています(図表2)。特に増加額が多いのは、国内株式型やマルチアセット型で、それぞれ804億円、581億円も増加しています。反対に、海外債券型の残高は82億円ほど減少しています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の31.7%を占めています。2番目に残高の多い国内株式型は全体の24.9%ですので、上位2タイプだけで全体の57%を占めていることとなります。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ43.5%、23.4%となり、前の四半期に比べて、前者は0.9%増加し、後者は1.2%減少しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、37.5%であり、前四半期から0.8%増えています。逆に海外資産を中心に運用するファンドは前四半期から1.1%減少し、29.4%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、73.8%となり、ほぼ4分の3を占めています。

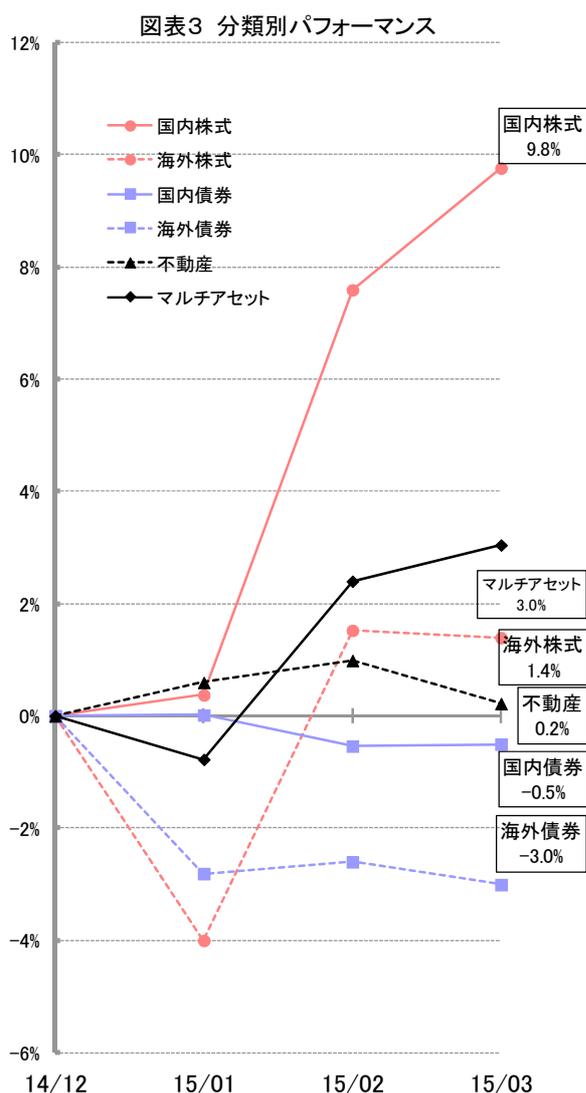
図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	13/06	13/09	13/12	14/03	14/06	14/09	14/12	15/03
国内株式	6,270	6,709	7,231	6,788	7,190	7,573	7,918	8,722
アクティブ運用	2,428	2,613	2,863	2,666	2,822	2,969	3,082	3,350
パッシブ運用	3,842	4,097	4,367	4,122	4,368	4,604	4,836	5,372
海外株式	3,936	4,246	4,913	4,947	5,255	5,665	6,344	6,528
アクティブ運用	1,010	1,092	1,262	1,256	1,316	1,379	1,531	1,583
パッシブ運用	2,925	3,154	3,651	3,691	3,939	4,286	4,814	4,945
国内債券	3,411	3,520	3,635	3,776	3,995	4,153	4,347	4,397
アクティブ運用	548	565	580	600	619	643	674	681
パッシブ運用	2,863	2,954	3,055	3,176	3,375	3,510	3,673	3,716
海外債券	2,743	2,810	3,053	3,125	3,245	3,505	3,866	3,784
アクティブ運用	397	406	429	438	448	480	526	519
パッシブ運用	2,346	2,404	2,624	2,687	2,797	3,025	3,340	3,266
不動産	187	215	225	229	287	355	451	498
マルチアセット	7,428	7,867	8,496	8,551	9,150	9,839	10,512	11,093
バランス型	7,250	7,661	8,239	8,242	8,747	9,251	9,826	10,328
ターゲットイヤー型	113	121	132	133	142	151	162	183
アセットアロケーション型	65	85	125	176	262	437	524	582
残高合計	23,976	25,367	27,552	27,418	29,121	31,090	33,439	35,023
残高割合								
国内株式	26.2%	26.4%	26.2%	24.8%	24.7%	24.4%	23.7%	24.9%
海外株式	16.4%	16.7%	17.8%	18.0%	18.0%	18.2%	19.0%	18.6%
国内債券	14.2%	13.9%	13.2%	13.8%	13.7%	13.4%	13.0%	12.6%
海外債券	11.4%	11.1%	11.1%	11.4%	11.1%	11.3%	11.6%	10.8%
不動産	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	1.0%	1.1%	1.3%	1.4%
マルチアセット	31.0%	31.0%	30.8%	31.2%	31.4%	31.6%	31.4%	31.7%

出所)野村総合研究所

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。



出所)野村総合研究所

### 分類別パフォーマンスの推移

図表3は2014年度第4四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この図を見ると、国内株式の収益率が9.8%と突出しています。その次に収益率が高いのはマルチアセット型で、堅調な国内株式相場に引っ張られたようです。また海外株式型は1月に為替が円高に戻ったこと等により、パフォーマンスが悪化しましたが、2月に戻したことにより、四半期の収益は+1.4%になっています。昨年は非常に高い収益率となった不動産投信型は、今年になって相場の上値が重く、収益率は0.2%に留まっています。

反対に四半期の収益率がマイナスになったのは国内債券型と海外債券型です。特に海外債券型は円高により四半期の収益率がマイナス3.0%と低迷しています。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2013年度第4四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額-解約額)の推移を表したものです。

DC専用投信全体への資金流入は直前の四半期(14年10月~12月)に159億円に減少しましたが、当四半期は再び拡大し、535億円となりま

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	14/01~ 14/03	14/04~ 14/06	14/07~ 14/09	14/10~ 14/12	15/01~ 15/03
国内株式	84	58	-63	-107	31
海外株式	87	132	104	-11	93
国内債券	115	192	138	109	73
海外債券	60	103	89	31	35
不動産	7	36	52	37	47
マルチアセット	243	370	352	99	257
資金純流入合計	596	891	672	158	535

出所)野村総合研究所

### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。

した。

分類別にみると、マルチアセット型の資金流入額は257億円と最も多く、これに続くのが海外株式型や国内債券型で、それぞれ93億円、73億

円でした。また不動産投信型にも47億円の資金が流入しています。資金流入が最も少なかったのが国内株式型で、相場の急騰により利益確定などの売却も多く発生したようです。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

**編集:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、  
野村資本市場研究所、野村総合研究所  
**発行:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター  
(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

**TEL:** 03 (6703) 3991

**FAX:** 03 (6703) 3981

**Email:** [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

— 次号のお知らせ —

次号は

**5月11日(月)**

発行予定です。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されました御客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

## 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合は、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会